

まち∞未来ミーティング(二部公民館) 意見記録

会 議 名	まち∞未来ミーティング（二部公民館）		
開催日時	令和 8 年 7 月 16 日(木)	9 時 30 分～11 時 10 分	開催場所 二部公民館
参 加 者	伯耆町	9 名	
	住民	10 名（別紙のとおり）	
概 要	・ 町長から町政提案説明・意見交換		
その他			

(参加者意見及び町側回答)

No	参加者意見	町側回答等
地域おこし協力隊	今まで地域おこし協力隊を採用し、事業を行うことは他自治体では実施されていたが、伯耆町は無かったが、新たな事業に取り組むのは良いことだと思う。今までしなかった経緯は？	過去、同様の形で事業を行ってきた経緯はあったが、成果があまりなかった。今年度から新たな取り組みに挑戦する形で事業化をおこなった。 地域おこし協力隊には、伯耆町の魅力発信をしていただくこととしている。
地域活性化	二部地域も人口も商店も減り、非常にさみしくなった。新たなにぎわいができる仕組みがあるのか？ この二部地区にある「森のようちえん」では、地域性が良い。県外から来られる方も多く、県外の保育関係者にもつながりがあるので、引き続き町に協力をしていきたい。	二部地域には魅力的な資源がたくさんある。地域が行うニブフェスなどには助力していきたい。今年度から移住コーディネーターを採用し、移住定住施策に取り組んでいく。 伯耆町は、人との関わりが素晴らしい地域でもあり、今後移住相談会等で紹介する際にも、紹介していきたい。

No	参加者意見	町側回答等
教育	昨年、健康ポイントやまちづくりポイントに関する提案を行ってきた経験を踏まえ、会議で発言することにより、町や事業者が何らかの形で動いてくれるという実感がある。 現在の地域課題として、次のような意見が出された。 ・高齢者が元気に暮らし続けられるまちであってほしい。 ・子どもたちが安心して地域で暮らし、通学できる環境を整えてほしい。 ・小学校のあり方や高齢者支援について、住民自身も努力するが、行政や事業者の力も借りながら改善していきたい。 大山町の大山小学校で小規模特認校制度の導入に向けた動きがあることを踏まえ、町内でも同様の制度を検討できないか(例えば、二部小学校などに、岸本地区など他地区から児童が通える仕組みがあれば、学校の活性化や児童数確保につながるのではないか)	町内の児童生徒数が減少している状況について説明。特に溝口地区では、児童数が毎年減少していく推計が示されており、強い危機感を持っている。 町内では地区を越えて学校へ通う実態もあることから、今後の学校環境のあり方について検討を進める必要がある。
補助制度	町には多くの補助制度や助成制度があるが、住民には十分に知られていない。区長になって初めて制度を知ったものも多く、補助制度を積極的に周知してほしい。	町の補助制度には多くのメニューがある一方で、住民に十分伝えきれていない面がある。 ホームページには掲載しているが、住民が自ら検索して情報にたどり着くことは難しいため、今後は LINE などを活用し、ホームページへの誘導も含めて情報発信を強化していきたい。
交通安全	子どもが横断歩道を渡る際に手を挙げて、止まってくれる車と止まらない車があることや、町内の道路で速度超過と思われる車両が多く、特に朝夕の時間帯には危険を感じる場面がある。 通学路で車の速度が速く、子どもたちが横断する際に危険を感じているため、点滅信号の設置ができないか。	学校では横断歩道の渡り方について、右左の確認、手を挙げること、止まってくれた車へのあいさつなどを指導している。 実際に、子どもがあいさつをしてくれて嬉しかったという声が学校に寄せられることもあり、こうした取り組みを継続していきたい 信号機の設置については警察の所管であり、交通量や事故の状況などを踏まえて判断されるため、町だけで決定できるものではない。 PTA や地域からの要望を踏まえ、町としても県や警察に対して必要な要望を行っていく。

No	参加者意見	町側回答等
情報通信	防災無線の更新が計画されているが、二部地区ではテレビやラジオの電波状況が弱く、ケーブルテレビに大きく依存している。ケーブルが切れた場合、テレビが映らず、FMラジオも入りにくい地域があるため、災害時の情報伝達に不安がある。	溝口地域はもともとテレビやラジオの電波状況が悪いため、ケーブルテレビ事業が始まった経緯がある。 その中で防災無線は重要な情報伝達ツールであり、見直しにあたっては、各集落での放送機能やLINE 連携などの機能も備えた機能も検討している。 一方で、高齢者などスマートフォンやLINE を利用しない住民もいるため、デジタル手段だけでなく、複数の情報伝達手段を組み合わせる必要がある。
地域医療	地域の医院が今後どうなるのか不安がある。特に高齢者にとって、身近な医療機関がなくなることは大きな問題であるため、町としても医療体制について考えてほしい。	地域医療は非常に重要な課題である。今後は病院などとの連携に加え、オンライン診療のような仕組みも含めて、医師と住民がつながる手段を検討していく必要がある。 医療、水道、下水道などは生活を支える重要なインフラであり、しっかり考えていく必要がある。
文化財	町には絵画などの美術品が多く収蔵されていると思われるため、それらを一般公開できないか。また、町内には次のような歴史・文化資源があるため、観光行政と結びつけて活用できないか。	美術品の公開などについて、持ち帰って検討したい。 文化財行政については現在やや手薄な面があり、教育委員会に文化財専門員が1名いるが、さらに1名増員するため募集を行っている。 体制を整えたうえで、文化財の保存・公開や観光との連携を進めていきたい。
道路環境	二部地区内でも地域によって状況が異なり、道路環境や生活課題に差がある。 県道沿いについて、歩道が未整備の区間があり、朝夕には歩行者や通学する子どもがいるため危険を感じるとの指摘があった。また、健康のために歩く人や自転車で通行する人も増えており、安全対策を考えてほしい。	県道については県の所管であるため、歩道整備や道路改良については県に要望していく。
	災害時に県道が寸断された場合、集落が孤立する恐れがある	町としても危機感を持っており、迂回路の確保も含め、県と協力しながら対応を考えていく。

No	参加者意見	町側回答等
移住定住	移住者について、自治会への加入や地域行事への参加は強制できるものではないが、地域としては関わってもらいたいという思いがある。一方で、地域とのつながりを求める人もいれば、そうした関係を負担に感じる人もいるため、移住希望者と地域とのマッチングが重要ではないか。 また、新しく造成された団地などでは、既存の自治会との関係や祭り・役務への参加のあり方が課題になる	自治会加入を強制することはできないが、受け入れる側の地域の体制づくりも重要である 地域との関わりを求める人、距離を置きたい人など多様な考え方があるため、人権や多様性にも配慮しながら、双方にとってよい関係を築けるよう考えていく必要がある